

事業番号	10 04 05	事業改善シート（令和 6 年度実施事業分）				☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	県営林事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課				
		実施期間	S47 ～	E-mail	shinrin @ pref.nagano.lg.jp				

1 現状と課題

県営林は人工林の約9割が60年生以上となっており、持続的な森林資源の循環を行うため、主伐を計画的に進めていく必要がある。だが、木材価格が流動的であり、搬出のための林内路網が脆弱で多大な維持コストがかかる上、傾斜が急な林分が多く搬出コストがかかることから、収益を上げることが難しい。また、ニホンジカやクマによる獣害が広がっており、食害による植栽木の枯死や、剥皮被害による林齢が高い立木の立枯れが進んでいることから、適切な獣害対策を行う必要がある。

2 事業目的

持続的かつ自立した林業経営を図るため、伐期の多様化や適地適木による多様な森林の造成を行うとともに、林業分野に関する新たな課題や林業事業者からの要請に対応することにより、「地方林業の経営に模範を示し、もって林業の振興発展に寄与する」という県営林の目的の高度発揮を目指す。

3 事業目的を達成するための取組

- ①県営林の森林整備
- ・主伐後の適正な更新のため、再造林及び保育、獣害防除を実施する。
 - ・健全な森林づくりのために間伐を実施する。
 - ・生産される木材の運搬や県営林を巡視等により管理するための路網の開設、改良、補修を実施する。
- ②県営林生産物の販売
- ・県営林資源の有効な活用及び財源確保のため、主伐、搬出間伐により生産される木材を販売する。
 - ・財源確保のため、まつたけ採取権や山菜などの副産物を販売する。
- ③県営林のCO₂吸収量をクレジット化して販売
- ・財源確保及び企業等によるゼロカーボンの社会づくりに貢献するため、県営林のCO₂吸収量をクレジット化して販売する。

4 成果指標

（推移の凡例 ♯：改善 ♭：悪化 →：変化なし ー：数値なし）

No.	指標名	単位	R4年度		R5年度		R6年度		R6年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	推移	実績	推移	実績	推移			
①	県営林再造林面積	ha	ー	ー	ー	0	→		18	未達成	伐期に達した主伐可能な林分を調査し、5か年計画を作成し、主伐後の再造林面積を目標値としている。
②	県営林産物処分実績	m ³	8,743		3,041	♯	2,681	♯	13,287	未達成	伐期に達した主伐可能な林分を調査し、5か年計画を作成し、目標値としている。
③	J-クレジット販売量	t-CO ₂	12		14	♯	38	♯	30	達成	前年度見込値以上の販売量を目標値としている。

5 本事業が貢献する総合5かi

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
1-1①	持続可能な脱炭素社会の創出	☆民有林における造林面積	ha	2022 (R4)	318	2023 (R5)	434	2024 (R6)	406	2027 (R9)	1,000

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R6年度	0	353,476	△ 142,043	211,433	169,327	202,584	4.0
R5年度	0	349,130	△ 109,963	239,167	172,174	229,255	4.0
R4年度	0	338,517	△ 95,785	242,732	157,992	230,761	4.0

事業番号	10 04 05	事業改善シート（令和 6 年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	■点検
事業名	県営林事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課	

7 主な取組実績と成果

①県営林の森林整備

県営林の森林整備について、現地調査と併せてGISデータ等を活用することで森林の現況を効率的に把握し、森林整備を実施した。

（佐久2件、諏訪1件、上伊那1件、南信州1件、松本2件、長野2件 合計9件）

また、再造林に向けての新しい取組として、佐久管内で主伐後の機械地拵えを実施した。これら森林整備の実施範囲等の情報はGISデータ化することで、県営林の効率的な管理に繋げることができた。

②県営林生産物の販売

上伊那管内で1件及び長野管内で2件の主伐契約を締結した。

また、佐久管内で2件の立木処分を実施した。これらにより、2,681m³の立木を販売し、約12,811千円の収入を得た。

地拵え完了後の小海県有林



③県営林のCO₂吸収量をクレジット化して販売

令和6年3月の認証委員会において956t-CO₂の吸収量が認証、クレジット化され、これにより総計で7,892t-co₂のバッファ分を除くクレジット量を創出した。

令和6年度のJ-クレジットの購入申込は6件あり、計38t-CO₂のクレジットを販売した。これにより、627千円の収入を得た。

また、令和7年3月には、クレジットを購入いただいた団体等に対し、長野県県有林J-クレジット創出プロジェクト協力団体認証書の贈呈式を実施、10t-CO₂以上の購入団体には木製の認証書を手交した。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	県営林再造林面積	R5年度推移	-	R6年度推移	→	達成状況	未達成
5年間で110haの再造林を目標とし、令和6年度においては18haの再造林を実施していく予定としたが、地拵えが完了した箇所において、早期の霜の発生により、植栽木の枯損を憂慮し、確実な活着のため植栽の施工時期について再度検討した結果、適期に植栽するため次年度に送ることとなり目標を下回った。							
指標②	県営林産物処分実績	R5年度推移	↘	R6年度推移	↘	達成状況	未達成
5年間で67千m ³ の木材生産の実施を目標とし、令和6年度においては13千m ³ の木材生産を目指して主伐・搬出間伐を実施していく予定だったが、主伐跡地が災害の原因とならないよう現地調査結果を踏まえて伐採範囲等を再検討した結果、主伐等実施面積が減少し、木材生産量は目標値を下回った。							
指標③	J-クレジット販売量	R5年度推移	↗	R6年度推移	↗	達成状況	達成
令和5年度末に約5,000t-CO ₂ の吸収量が認証され、平成24年度からの総計で7,892t-co ₂ がクレジット化されたことを受け、県HPや、新たに民間仲介会社のHP等を活用し、長野県県有林J-クレジット創出プロジェクトについて掲載、購入相談に積極的に応じた。また、経済産業省主催のオムニバスセミナーで長野県の取組について紹介した。結果、前年度を上回る販売量となった。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

県営林における主伐について、令和6年度は県有林及び県行造林における主伐契約をあわせて3件実施したところだが、県営林のGISデータを分析すると、主伐適地であると思われる箇所はほかにも数か所存在する。木材市場において、バイオマス燃料等の一部用途で木材需要が高まっており、県営林からの木材生産も期待されているところだが、県営林における本格的な主伐の実施例については始まったところであり、安易な主伐は災害等の原因となる可能性がある。令和4年度に策定した第11次県営林管理経営計画において、主伐実施の方針を定めており、林業適地で適切に事業が実施できるよう、十分に精査する必要がある。

(2) 事業改善の方策

主伐の計画・設計について、県営林が災害の要因とならないよう、林業適地での適切な事業実施のため、最先端の技術や確実な手法を習得する研修を開催する。

人員減の中、事業執行をフォローするため、主伐予定地の現地調査に本庁職員が同行する等バックアップを行い、適切な主伐が積極的に実施されるように改善を図る。

事業番号	10 04 05	細事業一覧（令和6年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検	
事業名	県営林事業		部局	林務部	課・室	森林づくり推進課

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
1	県営林事業		230,761 千円	229,255 千円	202,584 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	県営林の森林整備	委託	森林整備（地植え・保育・間伐等）及び路網施設事業（改良）を入札により発注し、実施した。 地植え 12ha,下刈 11ha,獣害防除 1ha,間伐 3ha,林道補修 3路線		
2	県営林生産物の販売	直接	主伐（主伐時の支障木伐採も含む）により生産された木材を入札により販売した。 主伐 3団地22ha		
3	県営林のCO ₂ 吸収量をクレジット化して販売	直接	1990年以降に間伐した箇所の森林によるCO ₂ の吸収量を国が認証するJクレジット制度により認証された県有林のJクレジットを販売した。 販売量 38t-CO ₂		